第６学年　音楽科学習指導案

日　時　令和５年６月１６日（金）
子ども　６年コクレーン学級　　２７名
指導者　藤　村　　い　ず　み

Ⅰ　題材名

いろいろな音色を感じ取ろう
（小学生の音楽　６　教育芸術社）

＜授業の見どころ＞

グループでイメージした演奏になるように各声部の役割をふまえて楽器を選び，音を合わせます。

Ⅱ　題材の指導構想

１　題材について

子どもたちは，初めて出合う楽曲でも口ずさんだり，声や体の動きで表現したりしようとする子どもが多い。様々な楽曲を聴いて聴き取ったことや感じ取ったことを様々な言葉で表現しようとしたり，感じ取ったことをもとにどのように歌いたいか考えたりするなど意欲的に学習に取り組んでいる。しかし，楽曲や仲間の演奏を聴いて，音楽の言葉で語り合い，グループ練習やパート練習の中でも，自分たちで成果や課題を見つけながら，もっといい表現をつくっていこうという姿勢で音楽活動に取り組む姿はあまり見られない。

これまでの学習において，５年時に「威風堂々」の鑑賞・器楽合奏をしたときは，音色の異なる様々な楽器が一体となって豊かな響きを生み出すオーケストラのよさや面白さ，美しさを感じ取ったり，旋律の特徴から楽器を選び組み合わせ方の工夫を考えて合奏を行ったりしてきた。５月に行われた運動会では，表現の種目で練習や作戦会議を通して，自分の考えや思いをもち，それらを実現させようと仲間と協力しながら主体的に活動を進める経験をしてきた。これらの学びの文脈を生かして，様々な楽器の音色が重なって生まれる響きを感じ取って，どのような演奏にしたいか思いや意図をもち，友達と協働的に表現について考えて演奏したりすることができるようにする。

本題材は，共通事項「音楽を形づくっている要素」として，「音色」に重点がおかれている。曲想と音楽の構造との関わり合いを捉える学習の６年間のまとめといえる題材である。教材は「ラバーズ　コンチェルト」を設定した。曲想と楽器の音色や響き，旋律の特徴などとの関わりを理解して，各声部の役割をふまえてふさわしい楽器を選択して合奏することで，思いや意図をもって演奏することができると考えられる。また，お互いの演奏を聴き合うことで，子どもたち自身で成果や課題を見つけながら，よりよい表現をつくりたいという姿勢で音楽活動に取り組むことができると考える。

指導に当たっては，次の三点に留意する。

一点目は，**学習活動・学習方法の選択と必然性のある課題設定**についてである。楽曲と出合いの時に聴き取ったり感じ取ったりしたことを全体で確認し「この楽曲で何をしたいか，何ができそうか」等と問い，自分たちで課題を設定するなどして学習を進めていくことができるようにする。

【手立て１「学びの文脈のデザイン」】

二点目は，**学び合いの工夫**についてである。子どもたちが学びを進めていく中で，個人で活動したりグループ活動を取り入れるなど，様々な学習形態での学習活動を通して，自分の考えと友達の考えをつないだり，友達の考えを取り入れて，自分の考えや演奏の仕方など広げたり深めたりできるようにする。

【手立て２「よりよく学ぶ３つの視点」】

三点目は，**生活や社会とつなげる場面の工夫**についてである。楽曲との出合いの時に，テレビCM等でも使用されている，サラ・ヴォーンが歌う「ラバーズ　コンチェルト」を聴かせる。子どもたちの生活と学習をつなぎ，曲想を全体で共有することでこの曲のよさをより感じ取り，意欲をもって音楽表現できるようにする。

【手立て１「学びの文脈のデザイン」】

２　題材構想図

題材の目標

(1)　楽器の音色や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して，音の重なり合う響きを味わいながら音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
(2)　旋律の特徴に合うように思いや意図をもって楽器を選んだり，どのような表現にするか楽器の音色の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。
(3)　いろいろな音色が重なって生まれる響きに興味・関心をもち，それらを生かして表現する学習に主体的に取り組む。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①各声部の旋律の特徴を理解している。 ③各声部が重なり合う響きを聴き合いながら，音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 ②曲想と楽器に音色や音の重なりとの関わりについて理解している。	①旋律の特徴に合った楽器を思いや意図をもって選んでいる。 ②どのような演奏にしたいかイメージをもち，思いや意図をもって楽器を選んだり，全体のバランスを工夫したりして演奏している。	①曲想と楽器の音色や音の重なりとの関わりに興味・関心をもって取り組んでいる。 ②友達と協働して，各声部の役割を考えたり，楽器の音色の特徴を生かして楽器を選んだりする学習に主体的に取り組もうとしている。

復興教育との関連

○　いきる「③価値ある自分」
　自分と友達の聴き取ったことや感じ取ったことを交流し理解する場面において，互いに理解しようとしたり認め合ったりすることで，自分の楽曲への思いや意図を価値あるものとして受け入れられていることを感じ，自己有用感と自己存在感を感じるとともに自己肯定感を高める。

○　かかわる「⑧仲間とのつながり」
　互いの考えを理解し合うことで，音楽表現への自分の考えを深めたり，楽曲への思いや意図を広げたりしていることに気付かせる。

資質能力の高まり

他教科・領域等

行事
６年　１１月
「全校音楽集会」
６年　３月
「卒業式」
・楽曲に対する思いや意図をもち，友達と協働しながら表現を工夫する。

教科の学習内容

１年
がっきとなかよくなろう
・打楽器の音色に親しみ，演奏したり鑑賞したりする。（打楽器）

３年
いろいろな音のひびきをかんじとろう
様々な楽器の特徴を感じ取って，鑑賞したり，演奏したり，音楽づくりしたりする。（金管楽器）

２年　いろいろながっきの音をさがそう
・打楽器の音色に親しみ，鑑賞したり，演奏したり，音楽づくりをしたりする。（打楽器での音楽づくり）

４年
いろいろな音のひびきを感じ取ろう
・様々な楽器の特徴を感じ取って，鑑賞したり，演奏したり，音楽づくりしたりする。（木管楽器）

５年
いろいろな音色を感じ取ろう
・楽器の音色や組み合わせによる響きの変化を感じ取り，表現を工夫したり鑑賞したりする。（オーケストラ）

本題材　６年
いろいろな音色を感じ取ろう
・様々な音色が重なって生まれる響きを感じ取り，表現を工夫することができる。

他教科・領域等

行事　６年５月
「大運動会」
・集団の演技についての課題をもち，仲間と協力して演技することができる。

学校生活
「今月の歌」
・様々な曲想に触れたり，曲想の変化に合わせて歌ったりできる。

見方・考え方を働かせるポイント

○　楽器の音色や旋律，音の重なりとの関わりに気付き，思いや意図をもって演奏をすること
　旋律の特徴を理解してその役割を考えたり，全体の響きの中で楽器の音色や音の重なり方などを工夫したりしながら合奏する。

子どもの願い

・様々な曲を，その曲に合った形態で歌いたい。
・曲想や歌詞から感じ取ったことをもとに歌い方や演奏の仕方に生かしたい。
・有名な曲を聴いてみたい。
・友達やグループで話し合って学習を進めたい。

教科の力

○音楽の学習に前向きに取り組んでいる子どもが多い。
○楽曲を聴いて，聴き取ったことを根拠にして感じ取ったことを発表する子どもが増えてきた。
●要素の働きに気が付いたり，思いや意図を表現に生かしたりするまでには至っていない。
●出合った楽曲のよさや面白さ，美しさを多面的にとらえたり，どのような学習方法で学習を進めていくか子ども自身が主体的に選択して決めたりすることに慣れておらず，教師主導になることが多い。

子どもの実態

手立て１　①育成したい資質・能力の明確化
指導事項・共通事項の焦点化→評価の見通し

３　題材の指導及び評価の計画（全６時間）

	○学習活動 働かせる見方・考え方〔音楽を形づくっている要素〕	◆研究の手立て	評価規準（評価方法）		
			知・技	思	態
「ラバーズ　コンチェルト」　楽器の音色の特徴や各声部の役割を生かしてイメージをもって合奏する。					
1	○　曲想を確かめ，主な旋律を階名唱したり，演奏したりする。 〔音色〕	手立て１　③生活や社会とつなげる場面の工夫 ◆出合いの場面でテレビなどで使用されている楽曲を聴き，曲のよさなどを共有して学習活動への意欲をもたせる。	①発言内容，ワークシート		
2	○　４つの声部の旋律を確かめ，各声部の役割を理解し，お気に入りの声部を選ぶ。〔音色〕	手立て１　②学習方法の選択 ◆学習活動を考えて必然性のある課題設定をする。	②発言内容，演奏聴取		
3	○　どのような合奏にしたいかイメージをもち，そのイメージに合いそうな楽器を選ぶ。〔音色〕	手立て１　②学習方法の選択 ◆新たに発見した課題を次時解決できるように見通しをもたせる。	②発言内容，演奏聴取		①発言内容，ワークシート
4 本時	○　イメージに合う演奏にするために，４つの声部の役割をふまえて楽器を選んで演奏する。 〔音色，音の重なり〕	手立て２　①学び合いの工夫 ◆同質グループ（同じイメージ）での学び合いをする。		①発言内容，行動観察，演奏聴取	
5	○　自分たちや他のグループの演奏を聴き合い，イメージに合うように全体のバランスを工夫して演奏する。 〔音色，音の重なり〕	手立て２　①学び合いの工夫 ◆異質グループ（他のイメージ）の演奏を鑑賞して自分たちの音楽表現に生かす。	③演奏聴取	②行動観察，演奏聴取	
6	○　グループごとに発表し，響きの違いを楽しんで聴き合う。 〔音色，音の重なり〕				②発言内容，行動観察

Ⅲ　本時の指導

１　目標

○　グループでイメージした演奏になるように，各声部の役割をふまえて楽器を選び、音を合わせることができる。

２　評価規準

【思考・判断・表現】

・　どのような演奏にしたいかイメージをもち，思いや意図をもって楽器を選んだり，全体のバランスを工夫したりして演奏している。

【主体的に学習に取り組む態度】

・　曲想と楽器の音色や音の重なりとの関わりに興味・関心をもち，友達と協働して，各声部の役割を考えたり，楽器の音色の特徴を生かして楽器を選んだりする学習に主体的に取り組もうとしている。

＜努力を要する状況の子どもへの手立て＞

担当する声部の特徴について確かめ，グループでイメージした演奏になるにはどのような音色が合いそうか，友達や教師と一緒に試して音色を確認させる。

３　展開（４/６時）

	学習活動 〇発問	時間	◆研究に関わる手立て	・留意点 【評価】
導入	１　常時活動 (1)　「ラバーズ コンチェルト」を前時までと異なる楽器で演奏する。 ２　学習内容の把握 (1)　前時の想起をする。 ・　４つの声部の役割を確認する。 ・　グループで表現したいイメージを確認する。 (2)　課題を把握する。 〇　今日はどのような学習を進めたいですか。 （イメージに合う演奏に向けて,）各パートの役割に合いそうな楽器を選んで合わせよう。	8	手立て１　②音や音楽のよさを実感する学習方法の選択 ◆　前時を想起して，どのような学習を進めていきたいか学習活動や課題を決める。 ・　自分のパートの楽器を決めてグループで合わせたい。	・毎時間，様々な楽器で主な旋律演奏することで，楽器の音色によるイメージの違いを感じることができるようにする。 ・同じようなイメージ同士でグループを組む。 ・前時までにグループ内で声部の担当を決め，階名唱できるようにしておく。
展開	３　学習課題の解決 (1)　イメージに合う演奏へ向けて，グループで楽器を選ぶ。 ・　４つの声部から担当したい声部の楽器を試すようにする。（個人⇔グループ） (2)　グループで合わせる様子を録音して，課題点を見つける。 (3)　他のグループの演奏を聴き合う。 ・　４つの声部の役割と楽器の音色が，全体のバランスやイメージに合っているか注目させて聴くようにする。	32	手立て２　①学び合いの工夫 ◆　「イメージに合う演奏にする」という目的を明確にして，個人で楽器を試す。 楽器の音色の違いを聴き取ったり感じ取ったりした**経験（つなぐ）**から，各声部の旋律に合いそうな楽器を試して**選び**，個人で練習したりグループで合わせたりして，イメージした演奏に近づくように**演奏する（つかう）。** 手立て２　①学び合いの工夫 ◆　異なる楽器の音色を合わせて，イメージに合う演奏になりそうか協働しながら音楽表現を工夫する。	・随時，４つの声部の役割を確認する。 【態度②】 【思・判・表①】 ・他グループと音が重ならないように，廊下など場所を変えてもよいことにする。
終末	４　本時のまとめ (1)　本時の振り返りをする。 ・　イメージに合う演奏にするために，各声部の楽器の音色を重ねてできた音楽のよさや面白さに触れられるようにする。 (2)　次時の見通しをもつ。 〇　次回は何をしたいですか。	5	**【期待する子どもの振り返り】** 私達のイメージに合うような演奏にするために，声部の役割を意識して楽器を選ぶとよいことが分かりました。自分たちの演奏を聴いてみて全体のバランスを直したいので，次回楽器を変えたり強弱を工夫したりしてみたいです。 手立て１　②音や音楽のよさを実感する学習方法の選択 ◆　子ども自身が課題を発見するために，次時は本時の学習から出た課題を解決させる。	